



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 横地常広

編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

P1 日臨技支部医学検査学会開催報告(1) 【関甲信・首都圏支部】

P2 World Congress of International Federation of Biomedical Laboratory Science (IFBLS) 会議報告

P3～P4 CAMT(カンボジア臨床検査技師会) 訪日

P5～P6 令和6年度 医療安全管理者養成講習会(基本コース) 開催報告

日臨技支部医学検査学会開催報告(1)

2024年度 関甲信・首都圏支部医学検査学会

響 ～ 未来を奏でるシンフォニー ～

学会長 中山 朋秋
実行委員長 西尾 昌晃



北村先生講演



特別シンポジウム

2024年度日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会(第60回)を令和6年10月26日(土)・27日(日)の2日間にわたり、一般社団法人長野県臨床検査技師会の担当で軽井沢プリンスホテルウエストにて現地開催いたしました。

本学会のメインテーマは、「響 ～未来を奏でるシンフォニー～」としました。新型コロナウイルス感染症やタスク・シフト/シェアにおける幅広い業務への対応など、われわれ臨床検査技師の業務やニーズのパラダイムシフトが加速している中、超高齢化社会を迎える日本の未来に対して、今こそ臨床検査技師の創意や真心を、地域社会に心地よい「響き」として示し、検査技師の未来および医療・介護・福祉を含めた社会全体の未来に向け、調和と共鳴を基調として創造するための学会としたいという想いをメインテーマに込めました。

2日間の参加者数は日臨技会員772名、賛助会員、非会員、学生などを含め832名で盛況のうちに幕を閉じました。

学会の内容としては、特別公開講演Ⅰは長野県のご出身であり、テレビ・マスコミでもご高名な弁護士の北村晴男先生による90分にもおよぶサービス満点の大講演会で、会場内は常に笑いにあふれ、最後にはわれ

われ臨床検査技師へのメッセージもいただきました。そして特別公開講演Ⅱは軽井沢町のとなり、満天の星空で知られる佐久市のうすだスタードームの松田健太郎先生に宇宙に一番近い県から星空への思いをご講演いただきました。特別公開講演Ⅲではプロの音楽家、スーパー・コモロ・ウインドオーケストラによる金管五重奏で、素晴らしい演奏を聴きながら紅葉の軽井沢を舞台に癒しのひとときを過ごしました。これらをはじめ、日臨技企画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、特別講演Ⅰ・Ⅱ、能登半島地震の活動をテーマとした特別シンポジウム、教育カンファレンスRCPC、青年局企画そして各分野における教育講演やシンポジウム、一般演題127題という魅力ある学術企画としました。

特に日臨技企画Ⅰでは横地会長から「医療DX」その先に・・・と題し、その基本的な考え方から今後の方向性そして会員への期待を込めた内容のご講演をいただきました。

学会1日目の情報交換会では200名を超える参加があり、実行委員が長野県の選りすぐりの日本酒を振る舞い、地元の軽井沢太鼓の演奏も交え、みなさん久しぶりの交流の場で終始とても盛り上がったひとときを過ごしました。

最後に、本学会の開催にあたりご協力いただいた会員・賛助会員・関係各社に長野県臨床検査技師会会員一同、心より感謝を申し上げます。

World Congress of International Federation of Biomedical Laboratory Science (IFBLS) 会議報告



IFBLS会議（横地会長：右端）

カナダのバンクーバーヒルトンホテルにてIFBLS代表者会：CD(Chief delegate) meetingが2024年9月13日に、GAD (General Assembly Delegates) が14日に、One day symposiumが15日に開催され、日本臨床衛生検査技師会（JAMT）横地常弘会長と筆者（国際担当専務理事 小松京子）が参加した。初日の会議はIFBLS会長の挨拶ならびに決算報告・事業報告が行われ、続いて各国から所国の現状報告と今後の検査業務に関する予測というテーマで5分間スピーチが行われた。日本は法令改正とタスクシフト・精度管理事業の現状報告を中心に発表した。未来構想としては世界各国ほぼ同じで、業務拡大や医療DXやAIなどが挙げられていた。更には、日本から2026年のIFBLS国際学会の進捗状況をアナウンスし、国際学会の大会長は横地常弘JAMT会長、副会長は専務理事の筆者が務めること、学会テーマを「Bridge to the future of BLS around the world」とし、日程は2026年9月23～27日で千葉幕張メッセで開催すること、特別講演としてWHOから講演者を招待することも合わせて報告した。



学会プレゼンを行う横地会長と筆者

14日はIFBLSの総会であり、グループワークならびにIFBLS理事選挙が行われた。立候補者は9名のうち7名が選出されたのち会長・副会長が選出された。2024年から2026までの理事は会長がスウェーデンの Gabriella Lillsunde Larsson氏、副会長が米国の Hassan Aziz氏、前会長がアイルランドのMarie Culliton氏が新執行部として会務をリードし、5名の理事がカナダ・デンマーク・オーストラリア・イギリス・韓国から選出された。

なお、今回 IFBLS Fellowship awardが制定され、第1回の受賞者として筆者が選出された。この賞は国際的な活動ならびに国内での専門分野での実績ならびに教育活動などが総合的に判断され、IFBLSの会長あるいは理事から2名以上の推薦などによって候補者となり、そこから選出されるしくみである。今後国際活動に積極的に参加されるかたの参考としていただければ幸いである。



Fellowship Awardの表彰

最終日のシンポジウムはIFBLSの歴史ならびにWHOとの関係、AIやPOCT、未来の教育システムについてなど多岐に渡る講演を聞き、質疑応答が活発に行われた。2024年の学会は立候補国の辞退により、カナダにおいてシンポジウムのみの開催となった次第であるが、各国のエキスパートによる講演は興味深いものであった。IFBLS国際学会は2020年は延期で2021年に小規模な開催となり、2022年は各国で開催されたが、まだCOVID19の影響もあり一部の国は参加できず、2026年の国際学会は世界から盛り上がり期待されている。今後契約の確認や参加費の設定・演題募集と進行していくこととなる。世界の技師との交流の機会を楽しむ貴重な機会である。少しでも多くの会員の方々にご参加いただければ幸いである。

（日臨技国際担当 専務理事 小松 京子）

CAMT(カンボジア臨床検査技師会)訪日

日本臨床衛生検査技師会ではカンボジアにおける臨床検査の質の向上を目的とし、平成29年から3年間で国立研究開発法人国立国際医療研究センターからの委託事業を受け医療技術等の向上のための支援を行った。MOUを締結した技術支援プログラムは終了しているが、今年度は臨時特別事業として令和6年10月3日から10月11日まで、カンボジアの臨床検査技師等20名が来日し、日本での臨床検査室ならびに大学・検査センターや日本医療検査科学会などを訪問し、帰国した。最終日の閉会式は日本臨床検査技師会館で行われ、国際委員である坂本秀生氏・石井脩平氏並びに小松京子国際担当専務理事による講演が行われ、横地常弘会長から修了書が渡された。カンボジアメンバー各自から提出されたレポートには、全員、研修並びに見学には大変満足したとの記載がなされていた。対応いただいた施設とスタッフの先生方やアテンドくださった実務担当委員の方々には心よりお礼を申し上げる。

(日臨技国際WG 委員長 濤川 唯・日臨技国際担当 専務理事 小松 京子)

施設見学・研修の様子

①日本大学医学部附属板橋病院・桐蔭横浜大学訪問



②シスメックス訪問



③日本医療検査科学会参加



④東京大学医学部附属病院訪問



⑤LSIメディエンス訪問



⑥閉会式(日本臨床検査技師会館)



令和6年度 医療安全管理者養成講習会(基本コース)開催報告

令和6年度 医療安全管理者養成講習会(基本コース)はオンデマンド配信と現地開催をセットで受講していただく形式で開催しました。受講者は10月1日～11月30日までの期間にオンデマンド配信を受講し、さらに10月11日(金)～12日(土)の現地開催への参加が求められます。現地開催はウイंकあいち(愛知県産業労働センター)で行われ、49名が受講しました。受講者からの感想をご紹介します。

【研修内容】

【現地開催1日目：令和6年10月11日(金)】

「エラーメカニズムの分析・対策(講義)」

講師：株式会社安全推進研究所 所長 河野 龍太郎

「エラーメカニズムの分析・対策(実習)」

講師：株式会社安全推進研究所 所長 河野 龍太郎

【現地開催2日目：令和6年10月12日(土)】

「品質管理と医療安全管理」

講師：株式会社日立製作所ひたちなか総合病院 根本 誠一

「産業界の品質・安全管理を学ぶ」

講師：株式会社クオリティ・クリエーション 古谷 健夫

「研修会企画」

講師：合同会社BanSou 古田 康之

【オンデマンド配信：講義1～8】

講義1「医療安全に必要な基礎知識」

講師：東京海上日動メディカルサービス株式会社

メディカルリスクマネジメント室 玉利 英子

講義2「厚労省の医療安全の取り組み」

講師：厚生労働省医政局地域医療計画課 駒形 和典

講義3「医療安全管理者の役割と業務」

講師：安曇野赤十字病院 中央検査室 村山 範行

講義4「医療機能評価機構事故収集事業」

講師：公益財団法人日本医療機能評価機構 井上 純子

講義5「KYTについて」

講師：パラマウントベットの株式会社 主席研究員 杉山 良子

講義6「関係法規」

講師：仁邦法律事務所 弁護士 墨岡 亮

講義7「PMDAの取り組み」

講師：独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)

医療機器品質管理・安全対策部 医療機器安全対策課 京田 拓也

講義8「医薬品安全管理」

講師：公益社団法人日本薬剤師会 田中 千尋

【オンデマンド配信：講義9～22】

講義9「医療機器安全管理」

講師：公益社団法人日本臨床工学技士会 山下 芳久

講義10「看護師の医療安全教育」

講師：公益社団法人日本看護協会 看護開発部

看護業務・医療安全課 内山 綾子

講義11「事故発生時の対応」

講師：医療法人三祥会 幸町記念病院 田中 信一郎

講義12「医療事故と診療情報管理」

講師：日本診療情報管理士会

川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部

医療情報学科 学科長 阿南 誠

講義13「検査部門の安全管理1(病理)報告書管理体制加算含む」

講師：聖マリアンナ医科大学病院 病理診断科 島田 直樹

講義14「検査部門の安全管理2(生体部門)」

講師：小牧市民病院 臨床検査科 田中 夏奈

講義15「検査部門の医療安全3(検体採取もしくは輸血)」

講師：帝京大学ちば総合医療センター 山本 喜則

講義16「究極のチーム医療—メンタリティー—」

講師：松阪市民病院 宇城 研悟

講義17「継続学習」

講師：慶応義塾大学医学部 病理学教室 鈴木 美那子

講義18「Safety IとSafety II レジリエンス」

講師：公立大学法人 横浜市立大学附属市民総合医療センター 中村 京太

講義19「今後の医療の変化と臨床検査技師の将来像」

講師：筑波大学 医学医療系長 川上 康

講義20「患者との協働で築く医療安全」

講師：認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口 育子

講義21「TQMから学ぶ病院品質管理」

講師：日立グローバルライフソリューションズ株式会社 永井 庸次

講義22「患者安全のためのノンテクニカルスキルとWHO患者安全マニュアル」

講師：千葉大学医学部附属病院 医療安全担当副病院長 相馬 孝博

(敬称略)

～ 受講者からの声 ～

医療法人財団聖蹟会 埼玉県中央病院 川良 龍之介

この度の講習会は当院で活動する医療安全管理者の助けになればと思い参加しました。

最初に驚いたのは動画講習視聴時間の長さです。数十時間に及ぶ視聴はとても長いですが、内容の濃さに圧倒されました。病院内で医療安全に関わる内容は従事者側から患者側まで多岐にわたるため多くの時間を要することが理解できました。

グループワークでは、事故の構造と人間の行動モデルに基づく分析手法(ImSAFER®)、研修会企画という内容を学びました。ImSAFER®手順に沿って事象関連図作成、問題点の抽出、背後要因の推定などを行い、時系列に沿った事象関連図の作成、レヴィンの行動モデルにそったP-E情報整理表の作成、なぜなぜ分析を用いて医療事故の構造を読み解いていく作業はとても苦戦しました。しかし、医療安全管理者や従事者は実際の医療現場においては本講習で行った内容を現場でリアルタイムに聞き取りなどを行いながら分析しなけれ



実習の様子①



ばなりません。実際に現場で分析を行っていく際に円滑に行動できるよう日ごろの意識と今回の講習会で得た知識、手法の振り返りをしたいと思います。

研修会企画では、医療安全について仮想病院の概要、年間スケジュール、対象者、行動目標、研修テーマなど実際に院内で研修会を企画する際の手法を学ぶことができました。院内研修や検査科の研修会でも応用ができる内容でしたので、今後の研修会企画に取り入れ目的に沿った内容の濃い研修会を行えるようにしたいです。

グループワークでは他の参加者の方々にも恵まれました。県や病院も異なる臨床検査技師が意見を交わして発表を行いました。周りの方々のコミュニケーション能力はとても勉強になりました。自分の持つ知識を相手に伝え、わからないことは相手に教えていただきながらグループの答えを出す作業は大変でしたが、とても充実した2日間でした。私の参加したグループは明るく、楽しく活発な議論ができたと思っております。

医療においてコミュニケーション能力は職員間だけでなく、患者様とも関わる際に必須となる力だと思います。周りの方々を見習い院内、院外で良好なコミュニケーションを取れるように日々精進したいです。

講習会を通して、医療安全の第一歩を踏み出せたのではないかと実感しています。内容はとても濃く大変ではありますが、私の拙い文章をお読みになった方も是非受講し、医療安全分野に関わる臨床検査技師になってみませんか？

最後に、動画研修、対面での集合型研修を企画していただいた先生方、共にグループワークをしてくださった皆様、本当にありがとうございました。

三重県立総合医療センター 海住 博之

令和6年10月11～12日に開催された医療安全管理者養成講習会【基本コース】に参加をさせていただきました。2日間にわたっての実習を交えた講習会であり、大変有意義な時間となりました。

1日目の午前、(株)安全推進研究所の川野龍太郎先生より『エラーメカニズムの分析・対策』についての講義を聴講し、午後からはグループに分かれての実習を行いました。実習では、ImSAFERという事象分析法を用い、模擬症例の解析を行いました。実際に体験することで、実践的に学ぶことができ、より理解が深まりました。1日通しての川野龍太郎先生のレクチャーでしたが、先生の楽しい話術によりあっという間の時間であったと感じました。

2日目の午前、(株)日立製作所ひたちなか総合病院 根本誠一先生より『品質管理と医療安全管理』、(株)クオリティ・クリエーション 古谷健夫先生より『産業界の品質・安全管理を学ぶ』について講義を聴講し、午後からは合同会社BanSou 古田康之



実習の様子②

先生より『研修会の企画をする』という実習をしていただきました。

根本誠一先生の講義から、品質保証（安全、安心、正しい）できる結果を提供するためには品質管理（患者満足度の管理/改善）重要であり、その結果として医療安全に繋がっていくということを認識しました。

古谷健夫先生は、トヨタ自動車でもTQM推進、品質管理に従事されていた方であり、産業界の品質・安全管理についてのお話を聴講することができました。最も印象的だったのは『SDCA（標準化）なくしてPDCA（カイゼン）なし』という言葉であり標準化の重要性を再認識させられました。

古田康之先生の実習では、グループに分かれて『臨床検査に関する医療安全研修会を企画する』というテーマで実際に企画を練りました。研修会を企画するにあたり、テーマ、見込みの参加人数、目標、研修方式、講師、評価法、等多くのことを考える必要があり、皆で頭を悩ませながら研修会企画を練っていきました。

この2日間で、医療安全に関する事象発生時の解析～日常管理まで幅広く学ぶことができました。臨床検査技師の立場から医療事故を未然に防ぐためには、日常からの品質管理が重要であり、品質保証できる結果の提供が重要であるということを強く感じました。

実地での講習会以外にも約30時間のWeb講習も用意されているため、より深くしっかりと勉強させていただきます。

最後になりますが、本講習会の講師をしていただいた先生方、また本講習会を開催していただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

（編集後記）秋から始める「新しいこと」、この心地よい時期は、何かと新しいチャレンジをしたくなる季節ではないでしょうか。読書やサブスク動画鑑賞、自分時間を満喫するのもいいですね。今年も支部学会のシーズンが始まりました。初めて参加する方、発表する方、運営側にかかわる方、どう感じましたか？おそらく多くの出会いがあったと思います。そしてこの経験はいずれ自身の技師人生を豊かにするでしょう。学会で得たヒントから新たなことにトライする秋の楽しみ方をみつけてみませんか。（今川）